

テストWG 参加表明

秋元 毅彦
日本アイビーエム・ソリューション・サービス株式会社
akmt@jp.ibm.com

要旨

SS2009 テスト WG における、討論したい内容、期待などを記述する。

1. 自己紹介

私は、所属する会社と担当するお客様は変わったものの、同じシステムの開発、保守を 20 年以上も続けているという不思議な経歴の持ち主である。

1964 年 8 月 21 日北海道苫小牧市で生まれる。父親にそろばんを習うように勧められたが、家庭に電卓が普及し始めたので、そろばんはきっぱり断り、コンピューターの道に入ることを決意した。初めてさわった、コンピューターは、秋山さんと同じシャープの MZ-80C だった。

1987 年、東京で大学を卒業後、私は北海道へ Uターンし、たくぎんコンピューター株式会社に就職した。入社後は、親会社である北海道拓殖銀行(たくぎん)の第 3 次オンライン開発プロジェクトに配属され、...

ご存知のとおりバブルがはじけ、1997 年にたくぎんは経営破綻した。たくぎん系列のソフトウェア開発会社 2 社とたくぎんのシステム部の行員は、日本アイビーエムの 100% 子会社として設立された、日本アイビーエム・ソリューション・サービス株式会社(ISOL)に転籍した。そして、たくぎんのオンライン・システムは、営業譲渡先の北洋銀行へ引き継がれ、現在も稼働している。

2. 最近の想い

ある日、偶然 Ed Yourdon の以下のプレゼンを見つけた。

“Most key software engineering ideas are not new. But they never got implemented consistently. It's not rocket science..... but common sense isn't common. Each new generation doomed to rediscover basics.”[1]

やはり、そうなのかと考え込んでしまった。テストにおいても G.J. Myers の『ソフトウェアテストの技法』[2]に書かれていることも『ソフトウェアテスト教科書』[3]に書かれてい

ることも、本質は変わっていないように思える。結局、基本をいかに徹底するかが課題なのだろうと考えている。

3. 討論したい内容

- 上流からの品質の確保
どうやって上流から品質を確保するか。動的テストは、要件や仕様どおりであることの確認作業なのだから、そもそも要件や仕様が誤っていたのでは話にならない。
- テスト担当者の育成
品質の向上のためにも、権限の分離のためにも開発担当者としてテスト担当者を分ける方向であるが、テスト担当者をどう育成すべきか。
- テスト作業の効率化
私の現場では、テスト工程がプロジェクトの工数の 30～45% を占めている。品質を向上させると同時に工数の削減も図るにはどうすべきか。

4. WS への貢献と期待

レガシー一筋 20 年で最近の流行にはついていけないので、大きな貢献はできないかもしれない。

しかし、札幌でこのような機会は多くないので、みなさんと楽しく討論できればと期待している。

なお、札幌のおいしいお店ならいくつかご紹介可能である。

5. 参考文献

- [1] Ed Yourdon, Top 10 Software Engineering Concept, <http://www.slideshare.net/yourdon/top-ten-s-econcepts-v111>, 2009
- [2] G.J. Myers, ソフトウェアテストの技法, 近代科学社, 1980
- [3] 大西健児 他, ソフトウェアテスト教科書 JSTQB Foundation 第 2 版, 翔泳社, ISBN-978-4-7981-1966-3, 2009